

『日本語地図』をデータベース化する：特徴と利用

熊谷康雄（言語変異研究領域）

1. 『日本語地図』データベースの構築とその特徴

■日本語地図：『日本語地図』（国立国語研究所 1966・1974；6巻，地図300枚）は本格的な言語地理学的な調査（1957・1965）に基づいて作成された日本で初めての全国的な言語地図である。昭和30年代の全国的な方言分布が一望できる方言の基礎資料である。

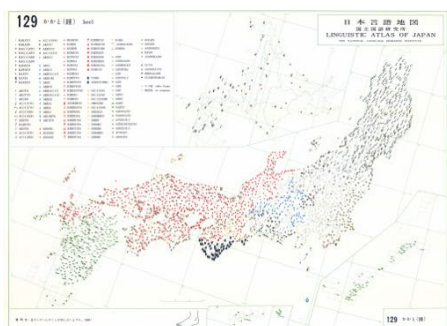
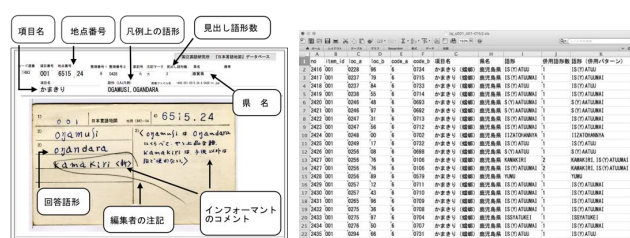


図1 『日本語地図』の例（129図 かんか）

『日本語地図』地図画像：https://mmsrv.ninjal.ac.jp/laj_map/

『日本語地図』はコンピュータの普及以前の印刷物であるため，データが必要な研究者は地図を目視で読み取って必要なものを作成していたが，調査地点数2400の『日本語地図』が持つ情報を十分に引き出し，活用する上では様々な制約や難しい面があった。

■データベース化とその特徴：『日本語地図』データベース（Linguistic Atlas of Japan Database: LAJDB）の構築は国立国語研究所に唯一保管されている約54万枚の原カードの保存と『日本語地図』の利用の高度化を目的として始めた。『日本語地図』として地図上に印刷された語形の分布情報のみならず，元となった原資料と併せて，全体をデータベース化することにより，『日本語地図』の利用の高度化，ならびに原資料を参照した新たな視点による地図の作成や分析，過去の分析の検証，資料批判などが可能となる。



(1) 画像データベース (2) エクセルファイル

図2 『日本語地図』データベースの画面の例

〔試験公開 <https://www.lajdb.org/>〕

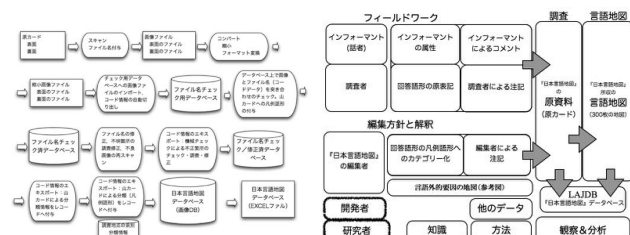
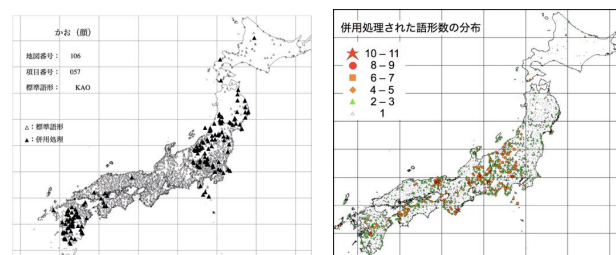


図3 『日本語地図』のデータベース化の工程（概念図）

図4 『日本語地図』データベースの開発と活用に関わる要素

2. 『日本語地図』データベースの利用

■原資料のカード情報の利用（話者／インフォーマントの内省情報）



(1) 標準語形と併用処理の分布（顔） (2) 併用処理された語形数の分布

図5 併用された標準語の回答として削除（併用処理）された語形

原カード上に記された話者の内省と地図編集の記録を参照した例。調査目的の方言ではなく，分布もないと予想され，編集の際の併用処理により地図上からは消えている標準語形の復元。分布がある。

■印刷物の言語地図を元には難しかった精密な地点別集計による観察

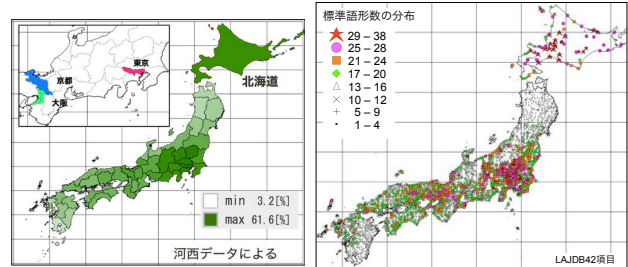


図6 県別の標準語形の分布 図7 地点別の標準語形数の分布

図6は目視により県単位でデータを作成した先行研究の地図。図7はLAJDBの2400の地点毎の集計による地図化の例。県単位の集計では見えなかった詳細なパターンによる現象の観察が可能になる。

■言語外的情報との関係の詳細な観察と分析

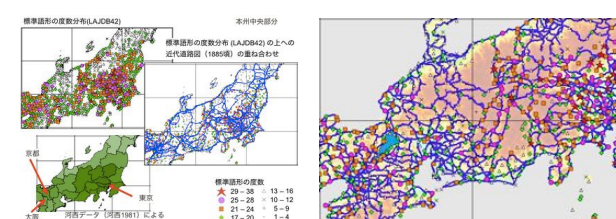


図8 標準語形数の分布と近代道路 図9 地形，現代の道路網と

図との重ね合わせ（本州中央部分） 標準語形数の分布（本州中央部分）

交通網と標準語形数の分布との関係の例。日本全国2400地点の地点別のデータの利用により，全国規模で様々な言語外的情報との関係の詳細な観察，分析が可能になる。

文献

国立国語研究所（1966～1974）（全6巻，東京：大蔵省印刷局。（縮刷版 1981～1985）熊谷康雄（2017）『『日本語地図』と『日本語地図』データベース：データベース化（LAJDB）による多角的分析に向けて』『方言の研究』3，pp.29-51 Kumagai, Yasuo (2016) “Developing Linguistic Atlas of Japan Database and advancing analysis of geographical distributions of dialects.” In Marie-Hélène Côté, Remco Knooihuizen & John Nerbonne (eds.), *The future of dialects*. Berlin: Language Science Press, 333-362. DOI:10.17169/langsci.b81.159

©LAJDBの構築には科学研究費研究成果公開促進費（データベース）〔平成13, 14, 15, 16, 17, 20年，『日本語地図』データベース（研究代表者：熊谷康雄）の補助を得た。本稿には，国立国語研究所共同研究プロジェクト「大規模方言データの多角的分析」（リーダー：熊谷康雄，2010-2012），「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」（リーダー：本部暢子，2013-2015），「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（リーダー：本部暢子，2016），およびJSPS 科研費 JP26370555（基盤研究（C）「大規模方言分布データの計量的分析方法の開発」，研究代表者：熊谷康雄，2014-2017）の成果を含みます。